

一般 質問

令和8年 6月定例会

町の旗印を示せ

高橋 徹 議員

A 今後も伝えていく

町長塚原隆昭

第3次総合振興計画は町政の最上位計画であり、「生命地域宣言」を基本理念、「笑顔と誇りを未来へつなぐまち飯南」を将来像としてい

Q 町のビジョンを明確に

町は「小さな田舎(まち)からの生命地域宣言」や「笑顔と誇りを未来へつなぐまち飯南」を掲げているが、総合振興計画は範囲が広く、町民にとって将来像が見えづらい。食の自給率100%や農業継承宣言など、より分かりやすい目標を掲げる考えはないか。町民とどのように共有していくのか。

また、中学生と接する中で、町の課題解決に前向きな提案や期待感を強く感じた。人口減少など課題が多い今こそ、本来目指す姿を明確に示し、町民へ伝えることが重要ではないか。



Q 次世代への農地・技術継承は

農業を将来にわたり維持するためには、農地だけでなく技術や経験の継承も重要である。若者への農地や技術の引継ぎ、また、耕作放棄地への対応について、行政はどこまで関わるのか。

実現に向け、行政が取り組むことと町民が取り組むことを明確にし、ともに進めていく考えである。十分に伝わっていない部分もあると認識しており、町政座談会やまちづくり懇話会などで、町の方向性や考え方を丁寧に発信していく。

A 飯南担い手協議会で

町長塚原隆昭

本町の農業継承は重要課題であり、家族間だけでは対応が難しくなっている。そのため、集落営農組織や認定農業者を中心に農地を守る体制へ移行してきた。令和6年度には「飯南担い手協議会」が発足し、地域農業を支えている。

県の新たな支援制度を活用し、集落営農組織による後継者確保や人材育成を進めていく。

耕作放棄地については、担い手への集積や作業受委託を進めているが、全ての農地維持は難しいため、地域で話し



Q モデルハウス古民家を

活用可能な空き家が約200件ある中、町主導で空き家を改修し「モデルハウス古民家」として発信してはどうか。

また、過去の類似事業が継続できなかった理由を問う。

A 町主体では困難

町長塚原隆昭

興味深い提案だが、適切な物件確保や費用対効果など課題もある。現時点で町が主体となつて整備する考えはない。

過去には「定住促進空き家活用住宅事業」を実施し、最大11件の空き家を借り上げ、移住者向け住宅として活用したが、改修費や維持管理費の負担が大きく、令和5年度で事業を終了した。

子どもは地域の宝

岸 光研 議員

Q 青少年に良い教育環境を

先般、プロ野球界の盟主たる球団の監督が逮捕されるというショッキングなニュースが飛び込んできた。家庭内における娘さんとのトラブルであつたと報じられた。昨今、児童相談所と警察の連携が強化され、駆け付けた警察官に現行犯逮捕された。著名人であるが故のニュースであるが、我々の身近なところでもあり得るのかと感ずる。

連日の報道等で青少年に関する事案も多く発生している。高校生が強盗殺人に関与していたことや、わが子を殺害する事件も発生している。このような事案には大人



の勝手な都合で子どもが犠牲となる事例も多くある。子育て教育の第一は、先ずは家庭であると考ええる。それから、学校・地域社会の中で、人との関わり方、自分の果たすべき役割などを身に付けていく。そのような成長過程において、様々な要因により間違つた方向へ進んでいくこともある。もちろん、個々の家庭・プライバシーに踏み込めない面もあるかと思う。幸いにこの地域ではみんな子どもを育てる、見守っていく習慣もある。このような地域の絆を守りながら、より良い子育てのあり方、環境づくりを構築しなければならぬと考えるが、教育長の考えを問う。

A 地域一体となつて取り組む

教育長大谷哲也

総合振興計画の「子育て・教育」の中で「地域で育む人づくり」を掲げている。

「学校運営協議会」いわゆるコミュニティスクールで、学校・家庭・地域が一体となつた人づくり、ふるさと教育、生命地域学による地域とのつながりづくりを進めている。これらの取り組みにより、公民館や地域の皆さんの力をお借りし、健全な育成、郷土愛を育む学校活動が活発であり、感謝している。

また、幅広い団体の協力を得て、飯南町青少年育成会議が設置されており、子どもたち取り巻く環境の改善、明るい家庭づくりの推進、青少年の非行防止、見守り活動にも取り組んでいただいている。

そのほか飯南町特別支援相談ネットワークを設置しており、学校・家庭・福祉部局・医療機関が連携し、きめ細か



な相談支援体制を整えている。

これらの取り組みは「小さな町だからこそできる強み」で、地域の絆を守りながら、よりよい子育て環境をつくるための基盤となると思っ